

Annual Report 2017

Center for Professional Development in Nursing
Kyoto Tachibana University

京都橘大学

看護教育研修センター

年報 2017



京都橘大学

INDEX

刊行にあたって 3

沿革 4

組織 8

認定看護師教育課程 9

看護キャリア開発事業 13

たちばなSIM事業 14

通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座 18

資料 21

資料1 『たちばなSIM 2017』のご案内 22

資料2 2017年度 看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座 23

刊行にあたって

京都橘大学看護教育研修センター所長

梶谷佳子

京都橘大学看護教育研修センターの事業は、2007年に認定看護師教育課程設置によって始まりました。皮膚・排泄ケア分野では2017年度で300名の修了生を輩出しています。

その後、本センターは、「看護職者の専門性を高め、その看護実践力を向上させるための教育研修を行い、地域に貢献する看護職者を育成する」ことを目指し、活動を継続してきました。看護専門職の継続教育として、看護研究支援、看護実践力の向上を目指すたちばなSIMの開催、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座など、看護職のキャリアを開発するためのプログラムを企画・運営して参りました。活動実績も増え、事業評価を行い、効果的なプログラムの開発を行う段階にきています。

京都橘大学の設置母体である京都橘学園では2014年度から「マスタープラン2022」が始まりました。社会のグローバル化と成熟化が進むなか、社会から学校に寄せられる期待はますます大きく、複雑になっています。このような背景において、2022年までの将来像と実行プランが策定されました。このプランを「マスタープラン2022」と言います。

本センター事業は、地域連携としてマスタープランの一つに位置づくと言えます。学部教育では毎年約100名の看護職を輩出しています。卒業後も知識・技術を高められるよう、一人一人が学び続けられる環境や機会を作ることが重要だと考えます。その一助となるようなプログラムを提供していきたいと考えています。また、本学卒業生のみならず、地域で活躍される看護職の方々の要請に応えられるような学習環境が整えられればと願っております。このような形で教育や研究のフィールドである臨床の場を提供して下さっている方々への恩返しができればと考えます。

先述しました、たちばなSIMにおきましては、2017年には、卒業生とともに勤務する看護職への門戸を開きました。また、看護研究支援事業につきましては、一定の役割を果たせたものと考え、閉講いたしました。そして、少子高齢社会において、多くの課題を有する混沌とした医療の中で、常に大切にしたい医療者の構えを問いかけるようなプログラムを構築したいと考えました。それを体現させたものが、看護職の倫理プログラムです。まずは、2018年度に、臨床実習でお世話になります実習指導者を対象とし、学生が実習中に遭遇する倫理的な課題についてディスカッションし一定の方向性を出せるようなプログラムを展開したいと考えております。また、通信教育課程看護学コース学修レポート作成講座のために作成したテキストを活用し、より効果的な学習を支援する取り組みも進めております。

これまで実施したプログラムの実施後のアンケートからは肯定的な評価を得られております。看護職としてのキャリア開発のために、本センターを大いに活用して頂ければ幸いです。今後も地域に拓かれた大学に附随するセンターとしての役割を自覚しつつ活動の計画・実施・評価を行っていきたいと考えます。

本年報は、本センターの活動報告をまとめたものです。活動が一人よがりとなりませんよう、忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願いいたします。

沿革

1) 認定看護師教育課程 教員会

開催時期	内 容
2007年度 4月 17日 11月 27日	入試・入学状況と年間計画 修了判定会議と次年度入学までの予定確認および承認
2008年度 4月 23日 11月 26日	入試結果、入学状況、年間教育実施計画および次年度予定について内容の検討と承認 修了判定会議と次年度予定確認および承認
2009年度 4月 22日 12月 15日	2008年認定部審査結果、2009年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討 および承認 2009年度生の修了判定会議、2010年度入試結果の確認および承認
2010年度 4月 21日 12月 7日	2010年度入試結果、入学状況と年間教育実施計画の検討および承認 再修了試験不合格者に対する対応について審議 修了生を含めた皮膚・排泄ケア認定看護師を対象としてフォローアップセミナー開催について検討 および承認 2010年度生の修了判定会議、2011年度入試結果の確認と承認
2011年度 4月 27日 12月 14日	2010年度修了報告および2011年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2011年度生の修了判定会議、2012年度入試結果の確認と承認 休学者が復学する場合の条件等について検討と承認
2012年度 4月 18日 12月 18日 2月 14日 (臨時)	2011年度修了報告および2012年度入試結果について確認と承認 フォローアップセミナーを含む年間教育実施計画および皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂につ いて検討および承認 2012年度生の修了判定会議、2013年度入試結果の確認と承認 開講期間延長について審議 修業年限・課程の終始期・入学資格に関する規定改訂内容について審議および承認 情報管理誓約書、教員会規定改訂について審議および承認、長期欠席規定については 継続審議となる
2013年度 4月 25日	2012年度修了報告および2013年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 2014年度5月開講について審議および承認

開催時期	内 容
2013年度 12月 19日	2013年度生の修了判定会議 実習不合格による再履修希望者について審議および承認 授業時間変更について審議および承認 授業時間に関する規定改定内容について審議および承認 2014年度入試結果の確認と承認
2014年度 4月 23日	2013年度修了報告および2014年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2014年度の計画の報告 第4回フォローアップセミナー開催について検討および承認
12月 9日	2014年度生の修了判定会議、2015年度入試結果の確認と承認 2015年度教育期間の確認と承認
2015年度 4月 22日	2014年度修了報告および2015年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 センター教員の社会貢献活動報告および2015年度の計画の報告
12月 10日	2015年度生の修了判定会議、2016年度入試結果の確認と承認 2016年度教育期間の確認と承認
2016年度 4月 20日	2015年度修了報告および2016年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認 センター教員の社会貢献活動報告および2016年度の計画の報告
12月 13日	2016年度生の修了判定会議、2017年度入試結果の確認と承認 2017年度教育期間の確認と承認
2017年度 4月 19日	2016年度修了報告および2017年度入試結果について確認と承認 年間教育実施計画の検討および承認 皮膚・排泄ケア分野カリキュラム改訂について確認と承認 センター教員の社会貢献活動報告および2017年度の計画の報告
12月 15日	2017年度生の修了判定会議、2018年度入試結果の確認と承認 2018年度教育期間の確認と承認

2) 看護キャリア開発委員会

2012年度

4月	16日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	7日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	7日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
7月	31日	第5回看護キャリア開発委員会
9月	19日	第6回看護キャリア開発委員会
10月	16日	第7回看護キャリア開発委員会
11月	20日	第8回看護キャリア開発委員会
1月	16日	第9回看護キャリア開発委員会
2月	19日	第10回看護キャリア開発委員会
3月	19日	第11回看護キャリア開発委員会

2013年度

4月	17日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	21日	第2回看護キャリア開発委員会
6月	17日	第3回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第4回看護キャリア開発委員会
9月	18日	第5回看護キャリア開発委員会
10月	23日	第6回看護キャリア開発委員会
11月	27日	第7回看護キャリア開発委員会

2014年	1月	22日	第8回看護キャリア開発委員会
-------	----	-----	----------------

2014年度

4月	23日	第1回看護キャリア開発委員会
5月	29日	第2回看護キャリア開発委員会
7月	23日	第3回看護キャリア開発委員会
9月	17日	第4回看護キャリア開発委員会
11月	4日	第5回看護キャリア開発委員会

2015年	1月	6日	第6回看護キャリア開発委員会
	3月	5日	第7回看護キャリア開発委員会

2015年度

	4月	15日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	27日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月	6日	第3回看護キャリア開発委員会
	9月	10日	第4回看護キャリア開発委員会
	10月	14日	第5回看護キャリア開発委員会
	11月	27日	第6回看護キャリア開発委員会
2016年	1月	6日	第7回看護キャリア開発委員会
	2月	10日	第8回看護キャリア開発委員会

2016年度

	4月	5日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
	6月	20日	第3回看護キャリア開発委員会
	8月	3日	第4回看護キャリア開発委員会
	9月	21日	第5回看護キャリア開発委員会
	10月	24日	第6回看護キャリア開発委員会
	12月	2日	第7回看護キャリア開発委員会
2017年	2月	15日	第8回看護キャリア開発委員会

2017年度

	4月	18日	第1回看護キャリア開発委員会
	5月	23日	第2回看護キャリア開発委員会
	7月	12日	第3回看護キャリア開発委員会
	9月	26日	第4回看護キャリア開発委員会
	10月	30日	第5回看護キャリア開発委員会
	12月	18日	第6回看護キャリア開発委員会
2018年	2月	16日	第7回看護キャリア開発委員会

組織

2017年度

認定看護師教育課程 教員会（当該教育機関内委員）

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
多 田 千和子	京都橘大学看護教育研修センター	准教授（皮膚・排泄ケア認定看護師）
宇 野 育 江	京都橘大学看護教育研修センター	講師（皮膚・排泄ケア認定看護師）
望 月 紀 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授
神 崎 光 子	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
竹 下 夏 美	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
岡 田 純 子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
小 西 奈 美	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

看護キャリア開発委員会

梶 谷 佳 子	京都橘大学看護教育研修センター	所長
河 原 宣 子	京都橘大学看護学部長	
堀 妙 子	京都橘大学看護学部看護学科	教授（看護学科主任）
工 藤 里 香	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
餅 田 敬 司	京都橘大学看護学部看護学科	准教授
岡 田 純 子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
野 島 敬 祐	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
マルティネス 真喜子	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師
深 山 つかさ	京都橘大学看護学部看護学科	専任講師

認定看護師教育課程

認定看護師教育課程

1. 皮膚・排泄ケア認定看護師分野の研修

超高齢社会による疾病構造の変化により、褥瘡や下腿潰瘍等の創傷ケアの重要性が高まっていること、排尿自立に向けた組織ぐるみの取り組みが必要であること、病院から在宅へ療養環境がシフトし在宅医療の充実が必要なことから、皮膚・排泄ケア認定看護師の活動の場が拡大している。皮膚・排泄ケア認定看護師が行うこれらのケアは保険収載されていることから、臨床における皮膚・排泄ケア認定看護師の需要は増える一方である。

2017年度認定看護師教育課程皮膚・排泄ケア分野では、3.2倍の受験倍率を経た30名が入学した。年々、倍率が上昇する理由としては、先に述べた皮膚・排泄ケア認定看護師の医療現場におけるニーズの高まりに加え、教育機関が全国で3機関と最盛期に比べ4分の1に減少したことが挙げられる。認定看護師制度発足から20年が経過し、日本看護協会では認定看護師制度の再構築を検討しており、今後の認定看護師教育制度の不確定さによって新規の教育機関が増えないことが要因として考えられる。これらのことから、当学を受験し入学する研修生は関西圏のみならず、全国から集まっている。

本課程は2017年5月17日に始まり12月22日に修了した。9月22日までは、講義と学内演習を行った。前半の講義で学んだ基礎知識を臨床に活用できるよう、後半の学内演習では臨床で活躍する皮膚・排泄ケア認定看護師を講師に迎え、グループワークを充実させた。9月24日から11月17日までは180時間に及ぶ臨地実習を行った。臨床における皮膚・排泄ケア認定看護師の行う実践、指導、相談を学ぶとともに、自己の課題を明確化することができた。実習終了後は実習の振り返りとケースレポートの発表を行い、12月7日には修了試験を行った。

6月に1名が自己都合により退学したが、29名はす

べての科目試験、臨地実習、修了試験に合格し修了することができた。また、前年度臨地実習で不合格となった研修生1名も、今年度の臨地実習及び修了試験を合格し修了することができた。修了生は通算300名となった。

2. 入学説明会実施

入学説明会は、2018年度受験を目指す人を対象に7月25日に実施し、70名が参加した。当センターの教育課程の概要や特徴、募集要項の説明のほか、修了生からの体験談や研修中の演習の様子を見学した。また終了後は個別の相談に応じた。2018年度の入学試験には説明会参加者の46名が受験し、合格者は15名であった。

3. 認定審査に対するフォローアップ研修

日本看護協会の認定審査は2018年5月17日に実施される予定である。第11期（2017年度）修了生の認定審査全員合格に向けて、修了後にフォローアップ研修を実施した（2018年2月、3月、4月）。

内容は認定審査を仮定し修了生が相互に問題を作成、解答と解説を行う。これにより審査まで自己に足りない知識を再確認し、モチベーションを保つことを目的としている。また、研修生が臨床に戻ってから経験し悩んだ症例の検討を行った。2018年2月7日に行われた第1回目のフォローアップ研修では26名が参加した。

4. 教員の専門領域の活動

【多田 千和子】

- 1) 京都橋大学看護学部4回生に対し「ストーマケア」および「高齢者の皮膚ケア」に関する講義を2コマ実施した（5月）。
- 2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や

情報収集を行い研修教育に活用した。

- ①第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（千葉）
- ②第19回日本褥瘡学会学術集会（岩手）
評議委員会に出席、一般口演の座長を行った。
- ③第47回日本創傷治癒学会学術集会（京都）
- ④第37回日本看護科学学会学術集会（宮城）
- ⑤第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（北海道）

【宇野 育江】

- 1) 洛和会音羽病院にて「排尿ケア外来」を実施した。（2回／月）
- 2) 以下の関連学術集会に参加し、最近の知見や情報収集を行い研修教育に活用した。
 - ①第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（千葉）

②第19回日本褥瘡学会学術集会（岩手）

③第24回日本排尿機能学会（東京）

④第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学術集会（北海道）

3) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
京都滋賀ブロック ストーマリハビリテーション講習会実行委員 兼 「ストーマケア用品」に関する講義

4) 10月 ケンコーセミナー2017 講師（京都）

5) 2018年 2月発刊「はじめてでもやさしいストーマ・排泄ケア」（学研メディカル秀潤社）にて執筆

6) 日本コンチネンス協会 電話相談員として適時電話相談に対応した。

看護教育研修センター 准教授
皮膚・排泄ケア認定看護師 多田千和子

看護キャリア開発事業

■たちばなSIM事業 14

■通信教育課程看護学コース

学修成果レポート作成サポート講座 18

看護キャリア開発事業

■たちばなSIM事業

京都橘大学看護学部では、2012年度から卒業生に対するキャリア開発事業として、シミュレーション学習を中心とした研修プログラム「たちばなSIM」を開催しており、今年で6年目となる。

参加した卒業生は、日々、忙しく臨床現場で働くナースだが、「たちばなSIM」では、学生に戻り、学ぶことを楽しんでいる様子が印象的である。懐かしい学び舎で、懐かしい教員が出迎える。参加者は同じ学部の卒業生ばかりで、共通の思い出がある人々。明るい雰囲気、リラックスして研修を受けることができる環境を作り出しているのが、本プログラムの大きな特徴である。それぞれ参加者は、職場での看護実践での出来事、悩みや戸惑いを気兼ねなく、安心して語り合える機会にもなっている。

今年度は、今までとはちがった新しい内容を取り入れた。1つ目には、今一度基礎に戻って、解剖生理をやり直してみよう、というもの。2つ目に今まで対象としてこなかった、本学卒業の助産師を対象とした母体急変時シミュレーション。3つ目には、他職種と連携して問題解決に取り組むチームトレーニング・シミュレーションである。

第1回の「学び直し!!キソからやる解剖生理」では、病棟で勤務し、後輩教育に携わることもある卒業生や、新人として働き出したばかりの卒業生、7名が

参加した。今さら聞けない解剖生理の知識を学び直す機会とすること、また参加者との交流を通して学びの幅を広げることをねらいに、企画した。3～4名のグループで、提示される3つの課題をクリアしていく。課題1『消化器：原井さんは便秘』のパートでは、便秘を訴える患者に対し、新人ナースが不十分なアセスメントで看護を展開しようとしているところを師長が発見し、新人がわかるように便秘について解剖生理から説明し、適切なケアを提供できるよう、先輩ナースに依頼する、というものである。各グループで、先輩ナースとしてこの新人ナースにわかりやすく説明するには…を考えてもらう。課題2『内分泌・代謝：糖尿病なのに、血糖値が正常?』のパートでは、新人ナースが糖尿病で入院している患者さんの血糖値がなぜ正常値を示しているのかわからない、と先輩ナースに相談を持ちかける、という場面から、この新人ナースにわかりやすく、糖尿病のメカニズムや治療との関連について説明するには…を考えてもらう。課題3『循環器：「そりゃ、心不全だから…」から卒業しよう』のパートでは、新人ナースが心不全患者の容態を報告する中で、「なぜでしょうか?」と質問することに対して「そりゃ、心不全だからね」で全て返答してしまう先輩ナースとのやり取りの場面から、この新人ナースの「な

表1 2017年度「たちばなSIM」プログラム

回	開催日時	テーマ・内容	担当	場所	受講人数
1	5/19(金) 10:00～16:00	学び直し!! キソからやる解剖生理	マルティネス、野島、平井、 内田、木村、岩崎	清優館 第3実習室	7名
2	6/4(日) 10:00～16:00 《オープンキャンパス》	母体急変時の初期対応	工藤、常田、野島、マル ティネス、宗、兵藤	清優館 第2実習室	21名
3	8/5(土) 10:00～16:00 《オープンキャンパス》	病棟での急変にチームで立ち向かう	野島、鈴木、田邊、峯松、 菊岡、穴吹(京都第二赤十字病院)	清優館 第1実習室	17名

ぜ？」に対してわかりやすく説明するには…を考えてもらう。各グループで、学生時代に使用した参考書を紐解き、普段、立ち止まって考えることのなかった解剖生理の知識を再確認していた。途中、参考書を読むのに没頭し、静まりかえる時間もあったが、知識をどのように組み合わせ、新人ナースに説明するとよいかをグループメンバーでの話し合いが活発に行われた。各グループでの発表は、それぞれわかりやすくまとめられており、互いに学びあえる機会になっていたのではないかとと思われる。



図1 グループに分かれて検討する



図2 教員特製の解剖生理ワークシートで知識の再確認

第2回「母体急変の初期対応」では、3期生から9期生の助産師17名、卒業生の同僚4名の計21名が参加した。参加者を卒業生のみ限定するのではなく、職場の同僚も誘って来てもらうことで、より訪れやすくなったのではないかとと思われる。

まずは、午前中にアイスブレイクを兼ねて、小グループに分かれ、「こんな症例にあたりました」というテーマで、自由に話し合ってもらった。様々なケースに遭遇している参加者同士で盛り上がり、話は尽きない様子であった。続いて、「京都プロトコル」について講義を行い、母体急変対応のための知識を確認した。その後、シミュレータを使用し、初期対応として胸骨圧迫のトレーニングを実施し、さらに妊婦モデルを使用しての胸骨圧迫を体験してもらった。午後からは、2つのケースでのシナリオシミュレーションを行った。ケース1は「分娩進行中の産婦に起きた羊水塞栓」、ケース2は「経陰分娩後に出血が増加した褥婦に対する対応」である。産褥婦の異変に気づいた助産師が、適切に初期対応でき、チーム医療で対応していくための行動を問われるシミュレーションであった。産褥婦のシミュレータは、経時的に状態が変化する設定になっており、リアリティのある急変時の状況を再現するように努めた。参加者は熱心にシミュレーションに取り組み、デブリーフィングでの意見交換も活発に行われていた。助産領域における急変対応のシミュレーションは体験する機会が少ないと言われており、今回の企画は、参加者にとって非常に貴重な学びの機会になっていたようである。

第3回の「病棟での急変にチームで立ち向かう」では、病棟で起きる患者の急変という設定で行った。学習効果を上げるために重要なフィデリティを高めるため、実習室に工夫を凝らし、リアルな模擬病棟を再現した。病室だけでなく、廊下やトイレ、詰所



図3 第2回たちばなSIM 講義風景



図4 母体急変対応シミュレーションの様子

といった病棟を作り上げた。シナリオは「アナフィラキシーショック」と「大量下血」の2つ準備をした。「大量下血」の方は夜勤中の設定とし、患者はシミュレータを用いて、同室患者は教員が演じることでシミュレーションを行った。夜勤中という設定のため、照明をおとして行った。そのため、受講者は緊張感をもってシミュレーションを行うことができていた。

夜勤でスタッフが少ない中、どのように連携するかについて考えることができた。「アナフィラキシーショック」は点滴を行っている、同室患者が胸痛を訴えてくるという状況だった。チームでどのように優先順位をつけ、役割分担をして対応するかについて考えることができた。受講者はシミュレーションの設定について、「同時に起こってとても焦った」、「その瞬間では頭が真っ白になることが分かった」などと述べており、体験して学ぶことの重要性が改めて確認できた。そして、受講者はシミュレーションを通して、とっさの判断、最優先にすべきこと、メンバーへの連絡方法など、自身の行動を再度じっくり振り返る機会となっていた。たちばなSIMで前もって経験することで、実際に現場で起きた時に、

少しでも行動できることに繋がることを期待したい。デブリーフィングでは、基本的な知識を振り返りながら、急変時の優先順位の考え方、それぞれの経験を活かした役割分担について活発な意見交換がなされていた。

全プログラムを通して、参加者のアンケート結果から、満足度は高く、日々の仕事に役立つ内容であった、という評価を得ている。知識や技術、自身の看護実践における行動について「改めて確認することができた」といったコメントが多数見うけられた。このことから、母校で学べる機会として、今後も「た



図5 「アナフィラキシーショック」に対応する受講生



図6 和やかな雰囲気、楽しく学べる場



ちばなSIM」を展開し、卒業生のニーズに応じたプログラムを提供していきたいと考える。なかでも第2回の助産領域のシミュレーションプログラムは、定期的な開催の要望が非常に高いものであったため、継続的に開催していく方針である。

今後も、より一層魅力あるプログラムを提供し、看護職として、病と闘う人々、病と共に生きる人々

の支えになり、専門職者としてキャリアアップしていく卒業生たちを支える場づくりにこれからも取り組んでいきたい。

京都橘大学看護学部 専任講師 マルティネス 真喜子
野島 敬祐

■通信教育課程看護学コース学修成果レポート作成サポート講座

『看護学コース履修者のための学修成果レポート作成サポート講座』は、本学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修で単位取得した学生が、大学評価・学位授与機構に学位申請のために提出する学修成果レポート作成のスタートを支援するための研修として、2013年度から開始した。2013年度は個人指導としたが、受講者が主体的にレポート作成に取り組めるよう、2014年度からグループ演習を中心に展開している（資料2参照）。

表1 プログラムの概要

STEP1：《テーマを絞る》		
10:45～12:15	論理的思考について（講義）	講師：梅本
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク（演習）	A日程講師：岡田、鈴木 B日程講師：梶谷、工藤、鈴木
STEP2：《レポートのアウトラインの作成》		
13:00～16:15（休憩15分含）	レポート作成にむけたグループワーク（演習）	A日程講師：岡田、鈴木 B日程講師：梶谷、工藤、鈴木

2. 受講者数

受講者数は、A日程は2グループ編成、B日程は で3グループ編成とした（表2参照）。

表2 受講者数とグループ数

	日程	時間	受講者	グループ数
STEP1	A 日程：5月17日（火）	10：45～16：15	9名	3
	B 日程：5月26日（木）	13：00～16：15	15名	2
STEP2	A 日程：6月14日（火）	10：45～16：15	6名	3
	B 日程：6月23日（木）	13：00～16：15	10名	2

3. 受講の目的、理解状況

プログラム受講時のアンケートをもとに、受講の目的、講座で理解できたこと、理解しにくかったこと、受講した感想をまとめた。アンケートの回答数はA日程のSTEP1が9、STEP2が14、B日程のSTEP1が6、STEP2が10だった。

1) 受講の目的

STEP1では「レポートの書き方について学びたい」「学位取得のため」「テーマ設定のため」「一

1. プログラムの概要

本講座のプログラムは、レポート作成のプロセスに添い、STEP1《テーマを絞る》、STEP2《レポートのアウトラインの作成》の2回で、グループで学習する。開講時期は5・6月であり、STEP1とSTEP2の間は1ヵ月あけ、受講者が課題意識を持って取り組めるようスケジュールを設定している。講師は本学教員と通信教育課程を担当する教員である（表1参照）。

人ではなく、他の方と学びたいため」「10月の提出を確実にするため」などがあった。

STEP 2では「アウトラインの作成を確実にしたかった」「レポート作成に自信がなかったので」「レポート作成を進めるため」などであった。

本講座はレポート作成のステップに添い展開しているため、受講生のニーズに即していると評価できる。

2) 本講座で理解したこと

本講座で理解できたこととして挙げられたのは、STEP1では「レポートの書き方の基礎」「アウトラインの作り方、重要性」「文献検索の方法」「接続詞の使い方」「考えてから書くのではなく、書くことで考える」などがあげられた。STEP2では「レポートの取り組み方、時期」「レポートの進め方」などがあげられた。この時期は実際にレポートに取り組む状況にあるため、具体的な取り組み方を学んでいた。

3) 本講座で理解しにくかったこと

本講座で理解しにくかったことは、「特になし」という回答が多かった。STEP1では、「いざ自分が書くとなれば難しく、すべて理解していないと感じる」という意見もあり、聞いただけではわからないことが、実際に自己で書いたり考えたりした結果、新たにわからないことが出てくるという状況であるとする。この点をSTEP2につなげていく必要がある。STEP2では、参加者がSTEP1からの1か月で考えてきたテーマなどに沿って、他の参加者や講師とじっくりと話し合う時間であるため、理解しにくいということはなかった。今回は、STEP1からSTEP2へ、スムーズに移行できたとする。

4) 受講した感想

受講した感想は、「論理的思考の講義はあつという間の時間であり、国語辞典を活用しなければと思った」と、まずは文章そのものの書き方についての学びの感想があげられた。そして「同じ立場の方がたくさんいて良かった」「口に出して他の人に説明することで、自己の考えが整理された」など、グループワークをすることで仲間作りができ、テーマを絞ることができている。STEP1、STEP2と続け

て受講することで、レポートのテーマが明確になり、レポートを書く、という気持ちになれるとの回答が多く見ることができた。

4. テキストの作成

受講者が適宜復習できるように、今年度は本講座のテキストを作成し、STEP1受講時に配布した。テキストを使用して講義をすることができ、有効に活用できたと考える。次年度も同じテキストを使用する予定である。

5. 前年度からの課題

昨年度からの課題として①学士申請に必要な事務手続きや文献検索の説明に時間がかかり、講座の主目的のディスカッションの時間が少なくなっていること。②受講者のレポート作成の概略の理解が少ないこと。③レポート作成へのサポートの充実の検討。以上3点が挙げられていた。①に関しては、予め必要な情報をコピーして渡していくなどの対応を行ったため、今年度は問題なかった。次年度からも同様の対応をしていくこととしたい。②に関しては、テキストを作成し配布することで対応した。来年度からも同じテキストを使用し、受講生の反応を見たい。③に関しては、各STEPで実施する内容をより詳細に提示することで、受講者の準備性を高め、講座のゴールに到達できるよう、整備を行った。今年度は参加者がお互いにサポートしていく体制がとれたのではないかと考える。

昨年度の課題はおおよそ対応できたと考えるため、次年度は、今年度と同様のプログラムを実施し、参加者の反応を見ていきたい。

看護学部看護学科 准教授 工藤 里香

資 料

資料 1



2017 京都橘大学 看護教育研修センター

たちばなSIM.

開催場所 京都橘大学 清優館 演習室 **参加費** 卒業生 ¥3,000/回 その他 ¥4,000 /回
対象者 本学部卒業生 卒業生じゃない友達も一緒に参加OK!! **定員** 各20名（先着順）

大学卒業後も看護学を学び続け、保健医療の現場で活躍する卒業生を応援する事業です。
 リラックスし、安心できる学びの空間で、働きながら身に付けた知識を改めて学びほぐす場を提供します。
 シミュレーションを取り入れながら楽しく学ぶ「たちばなSIM.」、みなさんの参加をお待ちしています!!

program

- 第1回** 学び直し!! キソからやる解剖生理 2017年5月19日（金）10:00～16:00
 解剖生理の知識を徹底的にグループ学習。患者さんへのケアに役立てるにはどうすればいい!?
- 第2回** 母体急変時の初期対応 2017年6月4日（日）10:00～16:00
 みんなで母体急変について語ろう。そして実践、助産師の初期対応!!
- 第3回** 病棟での急変にチームで立ち向かう 2017年8月5日（土）10:00～16:00
 病棟での急変時、誰が何をすべきか考え、とことんチームトレーニングをします!!

担当教員 マルティネス 真喜子
 野島 敬祐
 工藤 里香 その他

お申込み方法

専用力フォームからの申し込み → <https://goo.gl/ahzySx>
 京都橘大学看護学部のfacebookからの申し込みもOK!!

お申込み・お問い合わせ先

京都橘大学 看護教育研修センター
 〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34
 TEL&FAX 075-574-4133 E-mail 3academic@tachibana-u.ac.jp
 ※9:00～17:00（土・日・祝日を除く）



育ちあう、響きあう

京都橘大学

資料2

2017年度 京都橋大学 看護キャリア開発事業
通信教育課程看護学コース履修者のための
学修成果レポート作成サポート講座

京都橋大学看護教育研修センター

京都橋大学健康科学部心理学科通信教育課程で看護学コースの科目等履修生として修了された皆さんが、大学改革支援・学位授与機構に学位申請をされる際に学修成果レポートの提出が必要です。

学修レポート作成にむけて、何を書こうか、どのように進めていったらよいかなど、不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。そのような方々をサポートする講座を開催いたします。

この講座は、学修レポート作成のスタートを応援するものです。個人指導ではなく、**グループワークで学習を進めます**。学位申請という同じ基をもつ人が互いに支えあうネットワークを作ってください。そして、受講後は、互いに支えあって学修レポート作成に取り組んでください。

【受講対象者】

本学の科目等履修生「看護学コース」を修了された方および修了見込の方で、2017年10月期申請または2018年4月期申請を予定されている方。

※通信教育課程の前掲科目修了試験は8月に実施されます。

履修中の方はしっかりと学修計画を立てて、看護学コースの科目修了試験に向けての学習および学修成果レポートの作成を進めてください。

※未修得単位があり、2017年度に在籍期間延長予定で本講座の受講を希望される方は、事前に通信教育課にお問い合わせください。

TEL: 075-574-4335 ※9:00～17:00(土・日・祝日は除く)

E-mail: admin@tachibana-school.jp

(講座申し込み先ではありませんのでご注意ください)

【日程】

2日間の学習プログラムです。A日程、B日程のいずれかを選んでください。

※ Step2のみの受講はできません。

	A日程	B日程	開催場所
Step1	2017年5月16日(火)	2017年5月25日(木)	京都橋大学
Step2	2017年6月13日(火)	2017年6月22日(木)	

【プログラム】

Step1: <テーマを絞る>		講師
10:45～12:15	論理的思考について (講義)	講師：京都橋学園理事長
13:00～16:15 (休憩 15分含)	レポート作成にむけたグループ学習	講師：京都橋大学教員
Step2: <レポートのアウトラインの作成>		
13:00～16:15 (休憩 15分含)	レポート作成にむけたグループ学習	講師：京都橋大学教員

【受講料】

Step1のみ	15,000円
Step1とStep2	30,000円

【事前準備】

- ・受講前に、学位授与申請案内『新しい学士への道』を熟読しておいてください。
- ・申込者宛宛に eehool campus で配信されるガイダンス (文献検索、学位申請) を確認しておいてください

【その他】

- ・受講日は、大学内での文献検索が可能です。
- ・参考文献として以下を挙げます。
- 『松本藤 秋場研 (2014) 短大・専門学校卒ナースが簡単に看護大学卒になれる本 改訂4版, エール出版社, 東京, 』

【申し込み・問い合わせ】

申込期間: 2017年3月3日 (金) 10:00 ～ 2017年4月14日 (金) 17:00
申込方法: 下記 URL の「申込フォーム」よりお申し込みください。

<https://goo.gl/baXdl8>

申込受付後、受講料振込方法をメールにてご案内します。

問い合わせ先

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

E-mail: 3academic@tachibana-u.ac.jp

京都橋大学 看護教育研修センター

TEL & FAX: 075-574-4133 ※9:00～17:00 (土・日・祝日は除く)

※学位申請に関する手続き等については、大学改革支援・学位授与機構に問い合わせてください。

京都橘大学看護教育研修センター 年報2017

発 行：2018年3月

発行・編集：京都橘大学看護教育研修センター

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町34

Tel & FAX：075-574-4133

E-mail：cpdn@tachibana-u.ac.jp

URL：http://www.tachibana-u.ac.jp/about/nursing/